

新用字用例辞典

成瀬良明 著

新用字用例辞典

昭和四十八年十一月二日／初版第一刷発行
昭和五十四年九月十日／初版第九刷発行

編 者 武 部 良 明（たけべ・よしあき）

企画・編修 株式会社 信 光 社

〒一〇一／東京都千代田区神田神保町二二三

発 行 者 宍 戸 馨

発 行 所 教 育 出 版 株 式 会 社

〒一〇一／東京都千代田区神田神保町二二三
電話 東京（〇三）二六一一〇一九（代表）
振替口座 東京九一一〇七三四〇

印刷所 大日本印刷株式会社

H3 6 ~ 6 1 / 19

00340

~~00339~~

新用字用例辞典

武部良明 編

教育出版株式会社

序 文

この本は、普通に使われている漢字について、その好ましい用い方を明らかにした辞典です。漢字の用い方が分からないときにこの辞典を引けば、そのことがすぐ分かるようになっていきます。

現在普通に行われている漢字の用い方は、当用漢字表、同改定音訓表、同字体表などに基づいていて、それぞれ漢字の用い方に一応の目安があります。そのため、文章を書いているとき、漢字で書くのか仮名で書くのか、漢字はどんな漢字で書くのか、送り仮名はどのように付けるのか、などで迷うことが少なくありません。そこで、この本では、それぞれの漢字の読み方をすべて見出し語とし、それに送り仮名も付け、目指す語の好ましい書き方が容易に分かるようにしました。

また、漢字の用い方に関する知識は、関連した用例を参照することによって深められます。そこで、この本では、用例の配列その他に意を用い、漢字を勉強する上でも利用できるように構成しました。つまり、この本は、文章を書くための辞書であるとともに、漢字を覚えるための参考書ともなるわけです。

どうか、この本をいつも机の上に置いて参照してください。そうすれば、好ましい文字遣いの文章を書く上で役に立つだけでなく、漢字に関する知識も知らず知らずのうちに深められていくに違いありません。

昭和四十八年九月

編 者

使用上の注意

見出し語 この辞書では、普通に使われている漢字の読み方をすべて見出し語とし、それを「現代かなづかい」による五十音順に配列しました。その際、**字音**は片仮名、**字訓**は平仮名で示しました。なお、同じ仮名の場合には清音・濁音・半濁音、小文字・大文字の順に並べました。また、同じ読み方の漢字が幾つもある場合は、**字音・字訓**の順とし、それぞれについて画数順、画数が同じ場合は部首順に並べました。ただし、使い分けの問題になる異字同訓がある場合は、見出し語の平仮名の部分を「—」にしました。また、現代表記では仮名書きになる漢字も便宜加えましたが、その場合は、漢字の部分(—)に入れて区別しました。

ア ク 握 ○堅い握手 握力 ……

あ く 明く ○背の明いた洋服 ……

— 空く ○席が空く 手が空く ……

— 開く ○扉が開く 戸が開く ……

あ く 飽く ○飽かずながめる(眺) 飽くまで ……

あ く (灰汁) ○あくを抜く あくの強い文章 ……

用例の示し方 それぞれの見出し語の下に「○」を置き、その後にその漢字のその読み方での主な用い方を用例の形で示しました。その際、五十音順でなく、意味の関連や語の構成という観点から並べました。ただし、その漢字の用い方が意味や語の構成の上で大きく分けられる場合には、さらに「○」で区切りました。そうして、必要に応じ、それぞれの場合の意味を小文字で書き加えました。

また、例外的な書き方や注意すべき書き方を示す場合には、特に「▽」で区切りました。

イ 依

○よりかかる 大國に依存する 依頼心 解説の依頼 …… ○のまま 旧態依然 …… ○によって 願退職 依命通達 ▽よる(依る) 命じによって

▽い(じ、依怙地)

変化形の扱い 字音で濁音化するもの、促音化するもの、字訓でも語の構成要素として特別の音になるもの、などは別見出しにしました。その際、他の要素の前にのみ用いるものには後に「—」を付け、他の要素の後にのみ用いるものには前に「—」を付けました。

キ ョ ク 曲 ○曲線 曲直 …… ○交響曲 曲目 ……

— ギ ョ ク 曲 ○音曲の類 歌舞音曲 ……

キ ョ ッ 曲 ○表現を曲解する 曲解無用 ……

あ ま 雨 ○雨雲 雨曇り 雨脚が速い ……

あ め 雨 ○雨が降る 大雨 雨降り ……

— さ め 雨 ○小雨 春雨 氷雨 ……

ただし、二語の連合による連濁でその頭音が変わる場合は、「—」で区切りました。また、連濁でも、疊語の場合、助数詞の場合、字音で語を単位とする場合などは、適宜用例の中に示しました。

か わ 川 ○川の水 川上 …… ○がわ 小川 天の川 ……

か え す 返す ○元の持ち主に返す 借金を返す …… 返す返す

カ イ 階 ○階段 階下 …… ○階級 所得の階層 ……

▽一階、二階、三階 ……

記号の使い方 説明を簡略にするため、用例の中に次のような記号や小文字を用いました。

哀惜の念／愛惜の品 同音語のうちの紛らわしいものを対照する場合に「／」を用いました。

愛好／趣向「愛好」「趣好」が誤りであることを示す代わりに、「愛好」「趣向」を「」で対照させました。

愛煙家たは好き 意味を示すことはこの辞書の本来の趣旨ではありませんが、必要な場合に小文字で書き加えました。

悪業の報い 普通の読み方と異なる場合や読み方の分かりにくい語の場合は、振り仮名の代わりに二行割りの平仮名でその部分の読み方を示しました。

両々相まって(俟) 普通は仮名で書く部分につき旧表記を参考にするのが好ましい場合は、(ゝ)の中にその漢字を入れて示しました。

(安堵)の安心 言い替え語のある場合は、元の語を(ゝ)で包み、「ゝ」の後にその言い替え語を示しました。

かわい(可愛い) 全体が仮名書きになる場合は、(ゝ)の中に旧表記を入れました。

会う(逢う・遇う) 別の漢字に書き替える場合も、(ゝ)の中に旧表記を入れました。

漢字の他の読み方(1) それぞれの項の最後に「○」で区切り、その漢字の他の読み方のうち普通に用いるものが用例の形で一覧できるようにし、送り仮名を要するものは送り仮名も付けて示しました。

その際、見出し漢字が音読の場合は字音を先に、訓読の場合は字訓を先にし、それぞれ同系統の用例を「○」でまとめました。

また、熟字訓など特別の読み方になるものは、字音と字訓の間にもまとめて入れました。

漢字の他の読み方(2) 「○」で区切った代表的な読み方を取り出して、見出し語の次に小文字で並べました。このほうは字音・字訓の順にし、見出しと重複するものを適宜省きました。

おんな 女 ○女と男 女の子 女連れ 女心と秋の空 女の細腕
ジヨ・ニヨ
で 女手一つで …… ○おんなめ 女神 ○乙女め
め 早乙女め 海女め ○ジヨ 女子 ○ニヨ 天女 ○ウ 女
房 ○ジヨ

また、原則として各漢字の主たる字音が見出し語となっている項で、その漢字の字音と字訓とが一覧できるようにしました。すなわち、その漢字の普通に用いる他の字音・字訓のすべてを二字下げの見出しとして加え、それぞれ本来の見出しの下にある用例の一部を引いて示しました。

ジヨ 女 ○男女 男尊女卑 女子用／女史 ……
ニヨ ○天女 女入は禁制 女身 ……
ニヨウ ○女房 女房ごとは(詞) ……
おんな ○女と男 女連れ 女手一つで ……
め ○女神 女々しい 浮かれ女 ……

その場合、どの読み方のときにそのような示し方がしてあるかを明らかにするため、前記「漢字の他の読み方(1)」の最後に「○」でその見出し語を示しました。

内閣告示との関係 この本の漢字の用い方は、内閣告示の「当用漢字表」「同改定音訓表」「同字体表」を基礎としました。ただし、「補正資料」については、追加分に、削除分に、を付けました。公用文などはこのうちの、分を用いず、新聞などは、分を用いませぬ。

また、仮名遣いは「現代かなづかい」に、送り仮名は「改定送り仮名の付け方」に従いました。

ただし、送り仮名については、本則と例外に従い、許容は示してありません。送り仮名の少ない形などを希望する場合は、巻末「送り仮名の付け方」を参照し、規則的に処理することができます。

漢字の音と訓

日本語の中で使われている漢字の読み方には、「音(字音)」と「訓(字訓)」とがあります。「手」という漢字を「シュ」と読むのが音で、「て」と読むのが訓です。

音というのは、その漢字の中国語としての発音が日本に伝わって多少崩れたものです。訓というのは、その漢字の中国語としての意味に当たる日本語が、その漢字の「読み」として固定したものです。したがって、漢字を音で読めばそれが伝わってきたところの中国語の発音に似た発音となり、訓で読めばそのままその漢字の日本語訳になるというのが、音訓の実体です。つまり、「手」という漢字の訓が「て」であるということは、「手」という漢字の日本における読み方の一つであるとともに、「手」という漢字の意味にもなるのです。

したがって、一つの漢字の意味に当たる日本語がいろいろある場合、その漢字にはいろいろの訓が行われます。「行」という漢字を「いく・ゆく・おこなう」と読むのはそのためです。また、音の場合も、日本に伝わってきた経路や時代の違いにより、一つの漢字にいろいろの音があります。「行」という漢字を「ギョウ・コウ・アン」と読むのがそれです。

ただし、漢字の中には、「菊」「胃」のように、それに当たる適当な日本語がないために訓を持たないものがあります。また、「峠」「込」のように、漢字をまねて日本で造った文字の中には、音に当たるものが存在しない場合もあります。もっとも、本来の漢字の中にも、「扱」「目」のように、一般にはその音の用いられない場合があり、日本で造った文字の中にも、「働」「搾」のように、類推の形で音の行われているものがあります。

漢字熟語の構造

一つ一つの漢字は、訓の有る無しにかかわらず、特定の意味を持っています。そうして、結び付く順序によってそれらの意味の相互関係が生まれます。それを例示すると、次のようになります。

(1)上の漢字の意味が下の漢字の意味に係っている。

月末	「つき」の「すえ」	美人	「うつくしい」「ひと」
休日	「やすむ」「ひ」	最高	「もっとも」「たかい」
確定	「たしかに」「さだめる」	快走	「こころよく」「はしる」
雷鳴	「かみなり」が「なる」	前進	「まえ」に「すすむ」
射殺	「うって」「ころす」	平然	「たいら」な「ようす」

(2)下の漢字の意味が上の漢字の意味に係っている。

開店	「みせ」を「ひらく」	乗車	「くるま」に「のる」
有名	「な」が「ある」	多言	「こと」が「おおい」
不動	「うごか」「ない」	被疑	「うたがわ」「れる」

(3)同じ意味の漢字が続く。

根本	「ね」と「もと」	貧乏	「まずしく」「とほしい」
申告	「もうし」「つげる」	再三	「ふたたび」「またび」
黙々	「だまって」「だまって」	少々	「すこし」「すこし」

(4)反対の意味の漢字が続く。

昼夜	「ひる」と「よる」	売買	「うったり」「かったり」
晴雨	「はれ」か「あめ」か	高低	「たかい」か「ひくい」か
安否	「やすらか」か「そうでない」か		

したがって、漢字によって造られた熟語については、個々の漢字の意味とそれの複合関係を知ることにより、その熟語の意味がそれだけ理解しやすくなるわけです。

ア・あ

ア

○そのとき 亜熱帯 師の亜流をくむ(汲) 追隨 亜硫酸

亜鉛 亜麻 ○白亜の殿堂 ○アジア 東亜 東南

亜欧亜航路 ○アルゼンチン 日亜貿易 ▼亜(下)望

▼次ぐ(下)並ぐ(下)

アイ

○かなしむ 喜怒哀哀 幻滅の悲哀 哀切極まりない

哀愁を誘う 哀感に打たれる(哀歎)にも至る 哀悼

の意を表す 助命を哀願する(泣き付く) 涙ながらに哀訴

する 哀調のメロデー 哀傷歌/愛唱歌 哀惜の

念/愛惜の品 哀別の情/愛別離苦 ▼かわいそう

(下)可哀(下) ▼悲しい・悲しむ(下)哀しい・哀しむ

○哀れな話 哀れっぽい 物哀れな 哀れげ 哀れがる

○生き物を哀れむ 哀れみを掛ける 月を哀れむ(愛する)

○友を愛する 愛らしい 愛くるしい 愛情を示す 愛欲

恋愛 友愛 慈愛あふれる(溢)手紙 博愛衆に及ぼす

末子を偏愛する (溺愛)も盲愛 御自愛を祈ります

愛好/趣向 敬愛する偉人 親愛なる友 愛縁に引か

れる/合い縁奇縁 愛着(あつき)を覚える 愛護の精神 愛

国心 愛郷心 愛読書 最愛の妻 愛妻家 愛煙家

たばこ好き 列車の愛称 愛唱歌/哀傷歌 愛別離苦/

哀別の情 愛きよう(敬)がいい 愛想(あいさつ)がいい 愛想

を尽かす 御愛顧を願う 音楽を愛好する 愛用の万

年筆 愛がん(玩)物 亡父遺愛の時計(時) (愛撫)

アー あいさつ

アイ (隘)

あい 相

ソウ・ショウ

あい 相

ソウ・ショウ

あい 相

ソウ・ショウ

あい 相

ソウ・ショウ

あい 相

ソウ・ショウ

あい 相

ソウ・ショウ

あい 相

ソウ・ショウ

あい 相

ソウ・ショウ

あい 相

ソウ・ショウ

あい 相

ソウ・ショウ

あい 相

ソウ・ショウ

あい 相

かわいがる (寵愛(ちやうあい)を受ける) 愛される (愛妻(あいさい)めかけ) 情婦 ○おしむ 都合で割愛する 愛惜の品/

哀惜の念 ▼かわい(可)愛(い) かわいらしい かわい

がる たわいない(他愛) ▼慈しむ・惜しむ(愛しむ)いづ

づ(愛) ▼まな娘(愛娘(めいじやう)) うい(愛い) いとしいい

とおしい(愛しい・愛おしい) めでる(愛でる)

○くびれる (隘路(がいりやう)に) 障害 (狹隘(きやくがい)) 狭小

○相争う 相対する 相次ぐ大事件 相共に 両々相

まって(俟) 相異なる 相入れない 相寄り相助けて

功罪相半ばする 相対する(で)相成る 相成る 相変わ

らず 相済まない 武士は相身互い 相性(あいきやう)を見る

相合(あ)い(合)い(金) 相手 相棒 相乗り 相客 相席

相づち(槌)を打つ 入相(いりさう)の鐘 ▼あいこ ○あい。相

撲(う)ち。○ソウ 相談。○ショウ 首相。○ソウ・ショウ

合い 合(あ)い言葉 合(あ)い(かぎ)鍵 合(あ)い札 合(あ)い縁奇縁/愛縁

に引かれる 合間(あひま) 合(あ)いの着物 合(あ)い服 合(あ)いの手

合図(あひづ) 暮合(あひぐ) 山合(あひやま)の家 沖合(あひうみ) 話し合(あ)い 見

合(あ)い結婚 請け合(あひかけ)い 気合(あひき)い 度合(あひど)い 筋合(あひすぢ)い 色

合(あ)い 意味合(あひい)い 場合 割合 歩合 組合/取つ組

み合(あ)い 対校試合/泥仕合(あひじ)い 待合室 ▼ぐあい

(工合・具合) ころあい(頃) つりあい(釣) あいのこ

混血 ▼合(あ)い(間)い ▼動詞は(あ)うを見よ ○あう

合う 合わせる 又合点(あ)い(点) 又合点(あ)い(点) 又合点(あ)い(点) 又合点(あ)い(点)

併(あ)い(合)い 合戦。○ゴウ 合計 ガッ 合

あいくち(礼首) 〇つばのない短刀 あいくちで刺す ▼合(あ)い口 合わせ目

あいさつ(挨拶) 〇新年のあいさつ あいさつ 状 あいさつ代わり

あいだーあかす

あいだ 間 ○この間から 戸と戸との間 両者の間に入る 間食い

カン・ケン ま 親子の間柄 △合い(間合) ○あいだ ○ま 客間

あいっ (彼奴) ○あいつのやり方(遣) あいつは困る

あいにく(生憎) ○あいに雨になる あいにく(な) おあいにくさま

あいまい(曖昧) ○あいまいな発音 あいまい表現 あいまい(模稜)

あう 合う ○計算が合う 意見が合う つじつま(辻褄)が合う 目が合う 服が体に合う 好みに合う 割に合わない仕事 駅で落ち合う 話し合う 請け合う 間に合う △名前 はあいを見よ ○あう 合う 合わす 合わせる △合点 合点

ゴウ・カフー ゴウ 合計 ガフ 合併 ○カフ 合戦 ○ゴウ

会う ○客と会う時刻 人に会いに行く 道で出会う 行き会う 巡り会う 談判に立ち会う 立会人 △会う(逢う・遇う) △あひびき(逢引 密金) ○あう 会う ○カイ 会話 ○エ 会得 ○カイ

ソウ 遭う ○災難に遭う 交通事故に遭う にわか雨(俄)に遭う 野党の反対に遭う ○あう ○ソウ 遭難 ○ソウ

あえぐ(喘ぐ) ○生活苦にあえぐ あえぎあえぎ登る

あえて(敢て) ○あえて言う とりあえず あえない最期 △あえて(肯て) あえる(和える) ○ま(胡麻)である あえるもの △あえる(盡える)

あお 青 ○青と赤 青写真 青光り 青筋を立てる 青々と茂る 青物 目に青葉 青菜に塩 青二才年若い男 青田 買ひ 青刈り 青息吐息 青白い顔 青くさい 青さめる △真つ青 △青(碧・蒼) ○あお 青物 青い ○セイ 青年 ○シヨウ 緑青(緑青) リーショウ 群青 ○セイ 青い色 濃い青さ 青みを帯びる △青い(碧い・蒼い)

あかい 赤い ○赤い色 赤い屋根(あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる(魚の赤身) △赤い(丹い・朱い・紅い・緒い) △あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤 ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

あか 赤い ○赤い色 赤い屋根(あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる(魚の赤身) △赤い(丹い・朱い・紅い・緒い) △あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤 ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

あか 赤い ○赤い色 赤い屋根(あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる(魚の赤身) △赤い(丹い・朱い・紅い・緒い) △あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤 ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

あか 赤い ○赤い色 赤い屋根(あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる(魚の赤身) △赤い(丹い・朱い・紅い・緒い) △あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤 ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

あか 赤い ○赤い色 赤い屋根(あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる(魚の赤身) △赤い(丹い・朱い・紅い・緒い) △あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤 ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

あか 赤い ○赤い色 赤い屋根(あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる(魚の赤身) △赤い(丹い・朱い・紅い・緒い) △あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤 ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

あか 赤い ○赤い色 赤い屋根(あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる(魚の赤身) △赤い(丹い・朱い・紅い・緒い) △あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤 ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

セイ・シヨウ おお 緑青(緑青) リーショウ 群青 ○セイ 青年 ○シ

あおぐ 仰ぐ ○教養を仰ぐ(扇子であおぐ(扇) 仰ぎ見る山々 △あお のけさま あおむく(仰向く) ○あおぐ ○おおせ 仰せ ○ギョウ 仰角 ○コウ 信仰 仰ゴウ 渴仰 ○ギョウ

あおる(煽る) ○人気をあおる あおりに立てる 買ひあおる △あおる(叩る 一息に飲む) 酒をあおる 毒をあおる

あか 赤 ○赤と白 赤信号 赤帽 赤茶ける 赤字財政 赤貝 赤ん坊 赤子 赤裸(赤恥をかく(裸) 赤々と燃える 明々と輝く △真つ赤 △赤(丹・朱・紅・緒) △あかの他人 △あかあかね(銅) △あけ(朱) ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

あか 赤い ○赤い色 赤い屋根(あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる(魚の赤身) △赤い(丹い・朱い・紅い・緒い) △あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤 ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

あか 赤い ○赤い色 赤い屋根(あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる(魚の赤身) △赤い(丹い・朱い・紅い・緒い) △あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤 ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

あか 赤い ○赤い色 赤い屋根(あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる(魚の赤身) △赤い(丹い・朱い・紅い・緒い) △あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤 ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

あか 赤い ○赤い色 赤い屋根(あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる(魚の赤身) △赤い(丹い・朱い・紅い・緒い) △あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤 ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

あか 赤い ○赤い色 赤い屋根(あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる(魚の赤身) △赤い(丹い・朱い・紅い・緒い) △あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤 ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

あか 赤い ○赤い色 赤い屋根(あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる(魚の赤身) △赤い(丹い・朱い・紅い・緒い) △あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤 ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

あか 赤い ○赤い色 赤い屋根(あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる(魚の赤身) △赤い(丹い・朱い・紅い・緒い) △あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤 ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

あか 赤い ○赤い色 赤い屋根(あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる(魚の赤身) △赤い(丹い・朱い・紅い・緒い) △あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤 ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

あか 赤い ○赤い色 赤い屋根(あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる(魚の赤身) △赤い(丹い・朱い・紅い・緒い) △あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤 ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

あか 赤い ○赤い色 赤い屋根(あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる(魚の赤身) △赤い(丹い・朱い・紅い・緒い) △あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤 ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

あか 赤い ○赤い色 赤い屋根(あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる(魚の赤身) △赤い(丹い・朱い・紅い・緒い) △あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤 ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

あか 赤い ○赤い色 赤い屋根(あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる(魚の赤身) △赤い(丹い・朱い・紅い・緒い) △あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤 ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

あか 赤い ○赤い色 赤い屋根(あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる(魚の赤身) △赤い(丹い・朱い・紅い・緒い) △あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤 ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

あか 赤い ○赤い色 赤い屋根(あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる(魚の赤身) △赤い(丹い・朱い・紅い・緒い) △あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤 ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

あか 赤い ○赤い色 赤い屋根(あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる(魚の赤身) △赤い(丹い・朱い・紅い・緒い) △あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤 ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

あか 赤い ○赤い色 赤い屋根(あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる(魚の赤身) △赤い(丹い・朱い・紅い・緒い) △あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤 ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

あか 赤い ○赤い色 赤い屋根(あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる(魚の赤身) △赤い(丹い・朱い・紅い・緒い) △あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤 ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

あか 赤い ○赤い色 赤い屋根(あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる(魚の赤身) △赤い(丹い・朱い・紅い・緒い) △あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤 ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

あか 赤い ○赤い色 赤い屋根(あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる(魚の赤身) △赤い(丹い・朱い・紅い・緒い) △あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤 ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤口 ○セキ

あかす 飽かす。金に飽かして遊ぶ。暇に飽かして作る。○あきる 飽きる

ホウ・あきる 飽く 飽かす。○ホウ 飽和。○ホウ

あかつき 曉。○曉の空。完成の曉には実現したとき。▽あかつき(曉)

キョウ ○あかつき。○キョウ 今曉。○キョウ

あがなう(購う)。○書をあがなう。▽あがなう(贖う) 罪をあがなう

あがめる(崇める)。○神をあがめる。祖先をあがめる

あからむ 赤らむ。顔が赤らむ。赤ら顔の男。○あか 赤帽 赤い 赤らむ

セキ・シヤク 赤らめる。○真つ赤。○セキ 赤飯 セツ 赤化。○シヤク

あか 赤銅 シヤツ 赤口。○セキ

明らむ。東の空が明らむ。奥が明らむ。▽あからさまに言う

メイ・ミョウ ○あかるい 明るい 明るむ 明らむ。○あきらか 明らか。○あ

あかるい 明く 明ける 明かす 明かり 明くる。○明日。○メイ

あきらか・あく 明確。○ミョウ 明年。○メイ

あからめる 赤らめる。顔を赤らめる。目を赤らめる。▽赤らめる(赭ら

める)。○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる。○真つ

赤。○セキ 赤飯 セツ 赤化。○シヤク 赤銅 シヤツ 赤

口。○セキ

あかり 明かり。明かりがさす(射)。明かり窓。月明かり。電灯。燈のあか

メイ・ミョウ り。▽明かり(灯り)。○あく 明く 明ける 明かす 明

かり 明くる。○あかるい 明るい 明るむ 明らむ。○あきらか

あきらか 明らか。○明日。○メイ 明確。○ミョウ 明年。○メイ

あがる 上がる。階段を上がる。お宅へ上がる。地位が上がる。物価が

ジョウ・シヨウ 上がる。腕前が上がる。利益が上がる。能率が上がる

あがる。のぼる 雨が上がる。食事を上がる。召し上がる。浮かび上がる

うえかみ 干上がる。上がって失敗した。商売が上がつた。上が

り。口。色の上がりがい。病気が上り。雨上がり。▽上

あかす — あきらか

がる(贖はる)。○あげる 上げる。上げる。○のぼる 上る

上す。上せる。○うえ 目上。うり。上着。○かみ 川上。○上

手。○シヨウ 地上。○シヨウ 上人。○ジョウ

挙がる。例が挙がる。証拠が挙がる。犯人が挙がる。○あげる

挙げる。挙がる。○キ 挙国。○キョ

揚がる。花火が揚がる。た(風)が揚がる。歓声が揚がる。風

彩が揚がる。国威が揚がる。てんぷら(天婦羅)が揚がる

○あげる 揚げる。揚がる。○ヨウ 抑揚。○ヨウ

あかるい 明るい。外が明るい。地理に明るい。計数に明るい。明々と輝

く。赤々と燃える。○あかるい 明るい 明るむ 明らむ。○あ

あきらか 明らか。○あく 明く 明ける 明かす 明かり 明くる

○明日。○メイ 明確。○ミョウ 明年。○メイ

あかるむ 明るむ。窓が明るむ。明るんだ空。明るみに出る。○あかるい 明

るい 明るむ 明らむ。○あきらか 明らか。○あく 明く 明け

る 明かす 明かり 明くる。○明日。○メイ 明確。○ミョウ

明年。○メイ

あき 秋。○秋の七草。秋晴れ。秋日和。秋雨。○秋(二葉)

シユウ ○あき。○シユウ 晩秋。シユウ 春秋。○シユウ

あきなう 商う。魚を商う。商が多い。商い繁盛。担ぎ商い。大商い

シヨウ 薄商い。▽商い(商内)。▽あきん(商人)。○あ

きなう。○シヨウ 商売。○シヨウ

あきらか 明らか。明らかな証拠。火を見るよりも明らか。明らかに彼の責任

事情が明らかなる。月の明らかな夜。▽明らか(昭

か。顕らか)。○あきらか。○あかるい 明るい 明るむ 明

らむ。○あく 明く 明ける 明かす 明かり 明くる。○明日

あき。○メイ 明確。○ミョウ 明年。○メイ

あきらめる(諦める) ○進学をあきらめる あきらめが肝心かんじん

あきる 飽きる ○勉強に飽きる 見飽きる 飽きるほど食べる 飽きること

ホウ

を知らない 飽き足りない 飽き飽きする 飽きが来る

飽きっぽい △飽きる(厭いときる) ○あきる 飽きる

あきんど(商人) ○あきんどの町 旅あきんど あきんどかたぎ(気質)

アク 悪 ○悪に染まる 社会悪 罪悪感に駆られる 旧悪が現れる

悪意を持つ 悪質な手段 凶悪な犯人 醜悪な争い

露悪趣味 俗悪な漫画 粗悪な品 害悪を流す 悪路

悪臭が漂う 旧来の悪弊 悪習を打破する 悪疫流行

最悪の事態 天候凶悪 悪事千里を走る 悪名あざな

が高い 悪役を演じる 悪性インフル 悪銭身に付

かず 生来の悪筆 悪癖矯正 悪用 悪態をつく(吐)

悪魔に魅まいられる 悪霊あくりょう 悪業あくごふの報い 悪行あくぎょうの限り 悪食あくしょく いかにものぐい 悪戯あくで 悪逆無道勧善懲悪 悪つ(辣)な手段 (悪罵あくば) 悪口 悪

たれ口 憎まれ口 △あくどい広告 △憎い・憎む(十悪い

ば・悪む) △あし(十悪) △いたずら(十悪戯)

○悪化 悪漢 悪貨 悪口あくぐち 雑言ざつご ひどい悪口オ 才 ○にくむ 憎悪 好悪が激しい 悪寒 悪阻あくそ つわりわるい ○にくむ 憎悪 好悪が激しい 悪寒 悪阻あくそ つわりアク 握 ○堅い握手 握力(把握かく) 掌握

にぎる ○手を握る 一握り 握り締める 握り飯

あく 明く ○背の明いた洋服 うち(持)が明かない 目明き千人

明き首 ○あく 明く 明ける 明かす 明かり 明くる

メイ・ミウ あかるい・あきらか ○あかるい 明るむ 明らむ ○あきらか 明らか ○明

日々・メイ 明確・ミウ 明年 ○○メイ

空く ○席が空く 手が空く 店が空く 空家/店が開く 開店

クラ 空きがある 空き箱 空き俵 空き果わい(狙) がら

そら・から 空き 空地 空家 空間 空車 ○あく 空く

空ける ○そら 空色 ○から 空車 ○クウ 空気 ○クウ

開く ○幕が開く 戸が開く 店が開く 開店/店が空く 空家

カイ ひらく 開いた口が空がらない(塞) ○あく 開く 開ける ○ひら

あく 飽く ○飽かずながめる(眺) 飽くまで ○あきる 飽きる 飽く

ホウ・あきる 飽かず ○ホウ 飽和 ○ホウ 飽かす ○ホウ 飽和 ○ホウ

あく (灰汁) ○あくを抜く あくの強い文章 あく抜き あく洗い

あくせく (鯨鯨) ○あくせく働く あくせくしても始まらない

あくび (欠伸) ○あくびが出る あくびをかみ殺す(噛) △あくび(欠)

あぐら (胡坐) ○あぐらをかく(構) あぐら鼻

あぐり (揚繰) ○あぐり網 きんちゃく網

あくる 明くる 明くる朝 明くる日 明くる年 △明くる(十翌る)

メイ・ミウ ○あく 明く 明ける 明かす 明かり 明くる ○あかるい

あくる あかるい 明るい 明るむ 明らむ ○あきらか 明らか ○明日・メイ

あきらか 明確・ミウ 明年 ○○メイ

あげつらう(論う) ○欠点をあげつらう △あげつらう(評う)

あける 明ける ○夜が明ける 通路を明ける 店を明ける 留守/店を開け

メイ・ミウ 開店 一行明けて書く 明け放れる 明け渡る 城を

あくる あかるい 明け渡す 夜明け 明け方 明け暮れ 明けの日 明

けて五年になる ○あく 明く 明ける 明かす 明かり 明

くる ○あかるい 明るい 明るむ 明らむ ○あきらか 明らか

○明日・メイ 明確・ミウ 明年 ○○メイ

暖まる。○空気が暖まる。席の暖まるいとま(違)もない。○あたたか
ダン・あたたか 暖かい。暖める。暖まる。○ダン 暖房。○ダン

あたためる。温める。○料理を温める。体を温める。旧交を温める。○あ
オン・あたたか たか。温か。温かい。温める。温まる。○オン 温度。○オン

暖める。○室内を暖める。寝床を暖める。○あたたか 暖かい
ダン・あたたか 暖める。暖まる。○ダン 暖房。○ダン

あたま 頭。○頭を下げる。頭数。頭割。頭金。頭打ち。頭から
トウ・ト・ズ 頭ごなしに。○あたま。○かしら 尻頭。トウ 頭部。トウ

あたら (可惜) ○あたら若い命を失うおしくも あたらものないせつ
あたららしい 新しい。○新しい年 真新しい。目新しい。事新しく 新しがり

シン 屋。▽あたら(可惜)若い命を。○あたららしい。○あたら 新
た 新手。○にい 新妻。○シン 新聞。○シン

あたり 辺り。○この辺り 辺り近所 辺り一面 辺り構わず。▽来年
あたりがいい。こころあたり。▽目のあたり。○あたり

ーベ 海辺。○ヘン 周辺。ベン 近辺。○ヘン
当たり。○当たり大きい。○当たり狂言。○当たり年 一人当たり

トウ 反当たり 場当たり 的 当たり障りがある 差し当たり
当たり前のこと。▽目の当たり(面り)がある。○あてる

あてる 当てる。○トウ 適当。トウ 勘当。○トウ
あたる 当たる。○ボールが体に当たる。日に当たる。任に当たる。予報

トウ 当てる。○トウ 適当。トウ 勘当。○トウ
あたる 当たる。○ボールが体に当たる。日に当たる。任に当たる。予報

矢的にあたる。食べ物にあたる。中毒。○あてる。○当てる
当たる。○トウ 適当。トウ 勘当。○トウ

あたたまる。あつかましい。

あちら (彼方) ○あちらこちら あちらの人 あちこち
アツ 圧。○四囲を圧する。圧縮。圧搾空気。圧着。精神的な圧

アツ 迫。圧倒的な勝利。圧勝。圧制に苦しむ。悪政。圧
伏。物語中の圧巻。○アツ 圧力。アツ。○アツ

アツ 悪。○財政が悪化する。悪漢。悪貨は良貨を駆逐する。悪口
に雑言を吐く。ひどい悪口。○アツ 悪人。アツ。○アツ

アツ 悪。○わるい。悪い。○アツ
アツ 悪。○わるい。悪い。○アツ

アツ 悪。○わるい。悪い。○アツ
アツ 悪。○わるい。悪い。○アツ

アツ 悪。○わるい。悪い。○アツ
アツ 悪。○わるい。悪い。○アツ

アツ 悪。○わるい。悪い。○アツ
アツ 悪。○わるい。悪い。○アツ

アツ 悪。○わるい。悪い。○アツ
アツ 悪。○わるい。悪い。○アツ

アツ 悪。○わるい。悪い。○アツ
アツ 悪。○わるい。悪い。○アツ

アツ 悪。○わるい。悪い。○アツ
アツ 悪。○わるい。悪い。○アツ

アツ 悪。○わるい。悪い。○アツ
アツ 悪。○わるい。悪い。○アツ

アツ 悪。○わるい。悪い。○アツ
アツ 悪。○わるい。悪い。○アツ

アツ 悪。○わるい。悪い。○アツ
アツ 悪。○わるい。悪い。○アツ

あつけー あはれる

い 厚かましい。○コウ 濃厚。○コウ

あつけ (呆気) ○あつけに取られる。あつけない最後

あっせん (幹旋) ○就職をあっせんする。移民あっせん所

あっぱれ (天晴れ) ○あっぱれな手柄。あっぱれ、あっぱれ

あつまる 集まる。人が集まる。寄り集まる。流れ集まる。集まりが悪い

シュウ 町会の集まり。○あつめる 集める。集まる。○つどう 集う

あつめる・つどう ○シュウ 集合。○シュウ

あつめる 集める。金を集める。取り集める。寄せ集め。○あつめる 集める

シュウ・つどう 集まる。○つどう 集う。○シュウ 集合。○シュウ

あつらえる (誂える) ○服をあつらえる。おあつらえ品。あつらえ向きの天気

あつれき (軋轢) ○あつれきを生じる。労使間のあつれき

あてがう (充がう) ○仕事をあてがう。あてがいぶち (扶持)

あてやか (艶やか) ○あてやかな色。あてやかに飾る

あてる 充てる。建築費に充てる。財源に充てる。保安要員に充てる

ジュウ ○あてる。○ジュウ 補充。○ジュウ

当てる。胸に手を当てる。日光に当てる。株で当てる。漢字を当

トウ てる。割り当てる。捜し当てる。当て字。当てにする

当てがない。当て外れ。目当て。当て込む。当て馬。形式的

競争者。傷の手当て。期末手当。▽あてど (当処) もなく

歩く。▽あてする (中てる) 矢的的にあて。▽あてする

(宛てる) 父にあてた手紙。あて名。あて先。○あてする

当てる。当たる。○トウ 適当。トウ 勘当。○トウ

○後になり先になり。後先になる。後から行く。後を頼む

あと 後

ゴ・コウ

のち・うしろ

る。後足で立つ。後味が悪い。後厄。後押し。後回

し。後戻り。後じさり。總裁の後継ぎ。家の跡継ぎ

跡

セキ

後払い。後書き。仕事の後片付け。火事場の跡片付け

○あと。○のち。後程。○うしろ。後ろ。○おくれる。後れる。後

らす。○ゴ 前後。○コウ 後続。○ゴ・コウ

○足の跡。苦心の跡が見える。容疑者の跡を追う。跡目

を継ぐ。家の跡継ぎ。總裁の後継ぎ。跡取り。足跡

跡形もなく。跡地。城跡。火事場の跡片付け。仕事

の後片付け。▽あと (痕) 傷あと。○あと。○セキ 旧

跡。セキ 門跡。○セキ

あな 穴

ケツ 穴を掘る。地面の穴。針の穴。鼻の穴。穴蔵。節穴

毛穴。穴埋め。▽穴 (孔) 坑。▽あななし (賢)

○あな。○ケツ 墓穴。ケツ 穴居。○ケツ

○かならずしも。あながち悪いとは言えない

あながち (強ち) ○あなただ。あな任せ。▽あなただ。貴下。貴男。貴女

あなた (貴方) ○あなた (彼方) 山のあなた

あなどる 悔る

○敵を悔る。悔り難い勢力。悔りを受ける。○あなどる

ブ 悔辱。○ブ

あに 兄

ケイ・キョウ ○兄と弟。兄嫁。兄上。兄貴。▽兄 (義兄) ○あ

に。○兄さん。○ケイ 父兄。○キョウ 兄弟。○ケイ

姉と妹。姉上。姉貴。姉さん。お姉さん。姉御。あね

ね。○姉御。親分。▽姉 (義姉) ○あね (姐) ○あ

ね。○姉さん。○シ 姉妹。○シ

あばく 暴く

○暴を暴く。秘密を暴く。暴き出す。暴き立てる。▽暴

く (発く) ○あばく。○あはれる。暴れる。○ボウ 乱暴

ボウ・バク あはれる

○バク 暴露。○ボウ

あはれる 暴れる。酔って暴れる。暴れ回る。暴れる者。大暴れ。▽あばら家

ボウ・バク・あばく

あばら骨。○あはれる。○あばく。暴く。○ボウ 乱暴。○バク

暴露 ○ボウ

あびせる 浴びせる ○水を浴びせる 浴びせ掛ける ○あびる 浴びる 浴

ヨク・あびる びせる ○浴衣^{カバ} ○ヨク 浴場 ヨッ 浴客 ○ヨク

あびる 浴びる ○水を浴びる 水浴び △湯あみ ○あびる 浴びる 浴び

ヨク せる ○浴衣^{カバ} ○ヨク 浴場 ヨッ 浴客 ○ヨク

あぶない 危ない ○道路は危ない 危ない遊び 危な松浮世戯 危なげない

キ・あやうい ○あぶない ○あやうい 危うい ○キ 危険 ○キ

あぶら 油 ○水と油 火に油を注ぐ 二ま油(胡麻で揚げ) 油を

ユ 流したような海面波靜か 機械油 油差し 油紙 油

かす(粕) 油染みる 油を搾る 追及 油を売る むだ話

▽あぶらけ(油揚げ) ○あぶら ○ユ 石油 ○ユ

シ 脂 ○牛肉の脂 脂が乗る 肝臓子 脂ぎった顔 △あぶら(青

あぶら汗 がま(蝦蟇)のあぶら 国民の血とあぶら ○あ

ぶらシ 脂肪 ○シ

あぶる (焙る) ○火にあぶる あぶり出し

あふれる (溢れる) ○水があふれる △あふれる(溢れる) 仕事にあふれる

あほう (阿呆) ○あほうなこと △あほうらしい △あほうとり(信天翁)

あま ニ ○尼になる 尼さん 尼寺 尼そぎ(削) おかっぱ △この

あま (阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○ニ

海女 ○あわび取り(鮑)の海女 海女のさな(鱒) 聞き取りにく

あまー 天 ○天の川 天の岩戸 天下り △あまのじゃく(邪鬼)っ

テン・あめ ○あま 天が下 あまー ○テン 天気 ○テン

あまー 雨 ○雨雲 雨曇り 雨もよい(催) 雨脚が速い 雨たれ(滴)

ウ 雨漏り 雨宿り 雨ごい(乞) 雨ざらし(曝) 雨具

あめ 雨がった(合羽) 雨戸 △あまがえる(蛙) ○あめ大

あびせるーあむ

雨ーさめ 小雨 あまー 五月雨 時雨^{サメ} 梅雨^{ウツ} 雨量 ○ウ

あまい 甘い ○味が甘い 点が甘い ねじが甘い 甘い言葉 甘み

カン 甘ったるい 甘口 甘党 甘酒 甘納豆 ○あまい

あまえる 甘える ○親に甘える お言葉に甘えて 甘ったる ○あまい 甘

カン・あまい い 甘える 甘やかす 甘んじる ○カン 甘味 ○カン

あます 余す ○予算を余す 持て余す 余すところなく見る △余す

ヨ・あまる (剰す) ○あまる 余る 余す ○ヨ 残余 ○ヨ

あまた (許多) ○種類はあまたある 引く手あまた

あまつさえ(剰え) ○そのうえ 雨がひと(酷)くあまつさえ風も強い

あまねく(普く) ○あまねく知れ渡る △あまねく(周く) △あまねし(遍し)

あまやかす 甘やかす ○学生を甘やかす 甘やかされて育つ ○あまい 甘

カン・あまい い 甘える 甘やかす 甘んじる ○カン 甘味 ○カン

あまる 余る ○金が余る 思案に余る 身に余る光栄 思い余る 余

ヨ りが出る 百円余り 悲しみの余り 余り多いので 余

りにも △余る(剰る) ○あまる 余る 余す ○ヨ

あまんじる 甘んじる ○現状に甘んじる 甘んじて受ける ○あまい 甘い

カン・あまい 甘える 甘やかす 甘んじる ○カン 甘味 ○カン

あみ 網 ○網を打つ 網の目 網元 網戸 底引網 △投網

モウ △あみ(揚繰)網 ○あみ○モウ 漁網 ○モウ

編み ○編みの粗い網 毛糸の編み目 編みがさ笠 編み物

ヘン・あむ ○あむ 編む ○ヘン 編集ーペン 新編 ○ヘン

あむ 編む ○毛糸で編む 竹を編む 本を編む 編み上げる ○あむ

ヘン 編集ーペン 新編 ○ヘン